

電機・情報ユニオン

2015年1月10日 第40号
 発行 **電機・情報ユニオン**
 〒105-0004 東京都港区新橋4-24-3
 エムエフ新橋601
 Tel&Fax 03-6450-1777
 Email: denkiunion@gmail.com

パナソニックで、定年まで働きたい 22人が参加し、第1回団体交渉を行う

パナソニックは2014年4月28日、SAWD（バイス事業（大阪府門真市）の会社分割およびスカイワークス（アメリカ）への事業譲渡を発表。会社説明によると、今回の事業譲渡で全員（179人）が転籍するのではなく、パナソニックに籍を置いて2015年3月末までは出向扱いとし、4月1日より新会社に移るといった内容でした。

雇用が心配だ 労働条件はどうなる

職場では、会社による対話会や企業内労組の職場懇談会が数回行われました。参加者は、「定年までパナソニックで働きたい」「スカイワークスに移ると、雇用が心配だ」「労働条件はどうなるのや」などの意見が多く出されました。

会社は、疑問に対する明確な説明を行わずに「当面2年間は大丈夫」を述べるだけで、労働者の不安は増すばかりの状況が続きました。

2割の人が転籍を選ばず

10月初めから、転籍同意を求める上司との面談が開始され、3回行われましたが、転籍を選択しなかった人は、対象者の2割を超える30数人になりました。

12月1日（月）、転籍を選択しなかった人に対する内示面談が行われました。

工場長と人事担当者は、一人ひとりに配置先と赴任日を告げました。

本人や家族の状況を一度も聞かれずに、いきなり北海道や福井県への転勤を内示された労働者は、その日の昼ご飯が喉を通らなかつたほどのショックを受けました。

広域配転の撤回を求める

12月8日（月）に会社に団体交渉申し入れ書を提出。19日（金）に1回目の団体交渉が開かれました。団体交渉には、12人の組合員（聾啞者3人）、関西地方本部役員、パナソニック革新懇役員、手話通訳者2人の総勢22人が臨みました。

組合員の12人全員が、本人や家族の健康、親の



11月28日（水）京阪西山荘駅での宣伝行動

介護の状況を説明し、「二重生活で苦しくなる」「今の病状で福井へ行くのは私に死ねというものです」と訴えました。3人の聾啞者も、本人の状況や会社に対する要望を出しました。

会社側は、1月1日から赴任先へ行くことについては撤回せず、「1月末までは自宅待機をしていただく。団体交渉で出された事情については、1月初めに個人面談を行い、検討する」と回答しました。

職場から地域から たたかいを強める

この間、新たに加入した組合員とパナソニック

第40号の紹介

1面 パナソニックで定年まで働きたい
 2面 119ヶ所で2万7065枚配布
 ルネサス高崎集会
 第2回中央執行委員会
 米田委員長メッセージ32
 3面 第3回定期大会 茨城支部
 第13回組合員のつどい 東京支部
 4面 交流のひろば、告知板

革新懇と電機・情報ユニオン関西地本は対策会議を重ねてきました。

次々に加入した新組合員は、職場の全員を対象にした相談活動や相談会を行い、企業内労組への要請などを行ってききました。

1月19日（月）には「励ます会」を100人規模で開催し、職場のたたかいと地域からのたたかいを結集していきます。

広域配転攻撃をはね返し、「定年までパナソニックで働きたい」の職場要求を実現する運動をいっそう強めていきます。

（西野健一）